

- ちょこっと紹介
- ファシリテーション地域づくり実践塾
 - ①コミュニティ・ビジネス入門編
 - ②チームビルディング
- インアーチ第三回全体会
- 九月イベント・ボランティア情報
- 大東町青少年少女発明クラブ
- 図書紹介

idea(アイデア)

いちのせき市民活動センター Newsletter「idea」は市民活動がアイデアを持って NPO と行政や企業、市民との出会い(deai)の機会を創り出す事を目的とした情報誌です。センター情報をはじめ管内の市民活動団体情報や行政情報をお届けします。

ちょこっと紹介

一関夏まつり

8月6日(金)、7日(土)、8日(日)の3日間にわたって開催された一関夏まつりでは、連日の夏らしい気候の中で様々な催しが行われ、歩行者天国となった通りには、多くの出店が立ち並び、集まった人々で賑わっていました。

当センターで管理している「いわて一関みちのく博物館 Point1」では、わたあめ、かき氷、玉こんにゃく、カレー、チキンドーナツなどのフードメニュー、焼酎、生ビールなどのドリンクメニューに加え、輪投げ、射的、あめ de わたあめなどの Point1 縁日コーナー、などによる盛りだくさんの内容で出店しました。



センター事業紹介

ファシリテーション地域づくり実践塾 第二回「コミュニティビジネス入門編」



8月10日(火)19時より、Point1(新鮮館おおまち向かい)にて、「コミュニティ・ビジネスとは」「これからの地域づくり」をテーマに、当センターのセンター長小野仁志と、副センター長小野寺浩樹の二人が講師を務め「ファシリテーション地域づくり実践塾」を行いました。

「ファシリテーション地域づくり実践塾」は、いちのせき市民活動センターが一関市から委託を受けて行っている地域貢献参画支援事業であり、地域で活動を行っている人を対象にした社会貢献活動のリーダーの養成と、知識や経験を生かした地域の担い手としての活躍の促進による、積極的な社会参加(参画)の支援を目的としています。

本事業では、社会貢献活動を行う組織の運営や会議に必要な「ファシリテーションスキル」「事務局スキル」に視点をあて、技能の習得と、地域づくりに貢献できるリーダーの養成を行います。土曜日に開催する「ファシリテーションスキル講座」と火曜日の夜間に開催する「事務局スキル」との2部構成になっており、参加者は講座で必要なスキルを身につけます。

ワークショップの前半では、「コミュニティ・ビジネスとは何か?」をテーマに、コミュニティ・ビジネスの事例を取り上げ、参加者一人一人がコミュニティ・ビジネスを定義しました。「コミュニティ・ビジネス」の定義の明確化によって、活動の本質が明らかになるだけでなく、定義があいまいなコミュニティ・ビジネスを自分の言葉で定義することによって、理解を促します。

ワークショップの後半では、「これからの地域づくり」をテーマに、地域づくりの目的、主体、事業の位置づけ、社会構造の変化などに視点を当て、「住んでいる地域で幸せに暮らす」という基本的な姿勢に注目し、地域づくりに必要なプロセスや仕組みについて学びました。

また、地域づくりにおける会議や組織運営に視点を当て、考えやアイデアをまとめ、コーディネートするスキルとして「ファシリテーションスキル」「事務局スキル」を挙げ、本事業の目的や意義と地域づくりの関係性を明確にし、次回への意識づくりにつなげました。今後の事務局講座の予定は以下の通りです。

9月7日(火)19時～21時
事務局スキル①「事務局というお仕事」
講師：小玉順子さん (大崎地域創造研究会)

【内容】
いったいどこまでが事務局の仕事なの？ 日常の仕事に振り回されるばかりではおもしろくない！それを「やりがい」に変えていくには・・・「足を踏み入れた」みなさんと共有します。

10月5日(火)19時～21時
事務局スキル②「事務局の実務的な話」
講師：小玉順子さん (大崎地域創造研究会)

【内容】
「活動とは事務なり」とはいつでもそこに行き着くまでが大変と思っているあなた！少しでも文明の利器を活用して効率アップさせましょう！内外からの信頼を得ていくためのポイントを紹介。

センター事業紹介

ファシリテーション地域づくり実践塾 第三回「チームビルディング」



8月21日(土)13時より、Point1(新鮮館おおまち向かい)にて、「チームビルディング」をテーマにファシリテーション地域づくり実践塾を開催しました。「チームで活動する際に必要な、チームの内部および外部の人との協力は、どのようにしてなされるのか?」という視点に基づき、いくつかのワークショップを行いました。

ワークショップでは、体験、体感、気づき、発見による参加者自身の学びを重視しています。知識体系としての「理解」(Understand)に対し、体験や体感に基づく「体現」(Realize)の必要性を挙げ、現場における活用の重要性を確認しました。

研修内容は大きく2つに分かれ、「効果的な自己開示の方法」及びそれに基づく「効果的な連携方法」に関する活動を行いました。

前半に行った「スパイラル・イントロダクション」及び「セルフ・フィードバック」の活動における目的は「効果的な自己開示方法の習得」であり、チーム内における効果的な自己開示がチーム全体にもたらす有益な効果を生み出すために、集団内の相互理解を促進しました。

後半に行った「チームで1つの紙飛行機」及び「異業種チームでイベント企画」の活動における目的は「ネットワークの活用と内容の応用」であり、メンバーの連携がチーム全体にもたらす質の向上を図るために、チームメイト全員が楽しみ、公益性のあるイベントの企画と発表を行いました。

会議の質を左右する「ファシリテーション」による、アイデア、企画、内容など会議の充実と、地域貢献活動との関係性を意識し、研修と研鑽を継続していきます。今後のファシリテーション講座の予定は以下の通りです。

9月25日(土)13時~17時15分

「合意形成メソッド」

講師：後藤真さん

(ジン・リキファシリテーション代表)

【内容】

どんな活動にも欠かせない「話し合い」を建設的かつ効率的なものに変える手段として「ファシリテーション・グラフィック(話し合いの内容をその場で板書き、話の全体像を可視化する技術)」を体験的に学びます。

10月23日(土)13時~17時15分

「コミュニケーションスキル」

講師：後藤真さん

(ジン・リキファシリテーション代表)

【内容】

自分の思いを表現する、意見を伝える、相手を尊重し受け入れる、相手の意見を聴く、といった一連のプロセスがスムーズに進行するよう、あらためて自分自身の対人スキルに磨きをかけます。

インアーチ第三回全体会



8月18日(水)19時より、Point1にて、インアーチ第三回全体会を行いました。この日の主な議題は「一関市協働推進アクションプラン(案)」に関するもので、当日会議に出席した15の団体の代表者と共に、「一関市協働推進アクションプラン(案)」の内容を共有し、市民活動団体としての不明点や追加点をまとめ、パブリックコメントとして提出しました。

会議では、資料を共有して全員で内容を確認した後、「要約して発言する」「発言時間を独占しない」「他人の意見を否定しない」「みんなで楽しく話す」などのルールに基づき、意見についてはそれぞれが発言することで共有するというスタイルをとり、すべてインアーチの意見としてパブリックコメントにまとめました。

今回の議論に用いた資料である「一関市協働推進アクションプラン(案)～わっしょい みんなでかつごう いちのせき」は、一関市が発表しているもので、A4サイズの原稿で全25ページ、「Ⅰ一関市協働推進アクションプランの策定にあたって」から始まる内容は「Ⅱ協働の概念」「Ⅲ行動計画」「Ⅳ協働の取り組みの推進方策」「Ⅴ協働の評価・検証、見直し」の全部で5つに分かれています。

一関市における協働の定義には、「継続的な話し合いと合意、協力して行動すること」という表現が含まれており、「協働とは何か」という原点から市民と行政が一緒に参加して話し合いを重ね、今回の案の策定に至りました。

プラン案は、協働という言葉の持つ抽象性と専門性による難解な印象と同時に、「もっと具体的に、わかりやすく」という意見からも分かるように、内容には一般的な感覚との相違もみられます。

プランの上位計画には「一関市総合計画」があり、「一関市協働推進アクションプラン(案)」は、市のビジョンの実行計画として位置付けられています。今後一関市では、今回募集していたパブリックコメントに基づき、9月には成案を策定し、10月にはプランの決定と公表を行います。

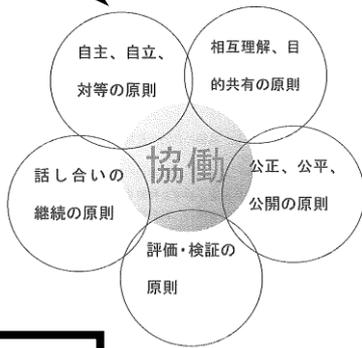
会議では、プラン案に対する意見や提案のほかに、現在の市民と行政における関係性や事業における課題など、多くの意見が出されました。意見をもとに、「市民→行政」という関係に見られるような一方的な要求や批判ではなく、建設的な提言の模索と、市民の主体的な行動による市民と行政の協働の実現化を図っていきます。

協働の全体像の理解に役立つものとして、資料に添付された「協働のイメージ図」があり、「協働とは何か」をまとめた「協働の概念」の中に、「協働推進の目標」「協働の必要性」「協働の定義」に続いて「協働の原則」としてまとめています。(図1)

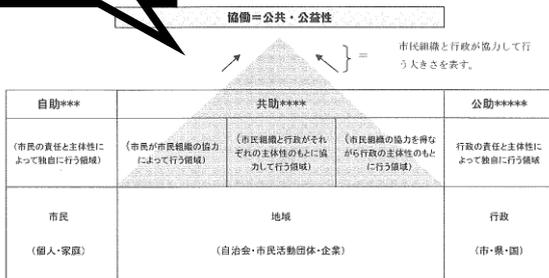
ここでは、自主、自立に加え、行政と市民が「対等な横の関係にある」事、協働の目的や情報を「共有する」事、公正、公平に加え、誰からも理解が得られるように情報を「公開する」こと、事業の予算や規模に関して「評価、検証を行う」こと、以上の

「一関市協働推進アクションプラン（案）」へのパブリックコメント

【協働のイメージ図1】



【協働のイメージ図2】



***「自助」とは、自分の責任で、自分自身が行うこと。
 ****「共助」とは、自分だけでは解決や行うことが困難なことについて、民間や地域が協力して行うこと。
 *****「公助」とは、個人や民間、地域あるいは民間の方では解決できないことについて、公共（公的機関）が行うこと。

4つの原則を踏まえ、話し合いを「継続していくこと」、という5つの原則を図で表しています。

また、市民、地域、行政の領域において、それぞれが行う活動を「自助」「共助」「公助」の3つに分類しており、ニーズや責任の範囲、協働する相手を明確に示しています。(図2)

このように、協働には活動に関する「主体」「領域」などの『市民』と『行政』の関係性を示したものと、実行すべき原則としての「協働に必要な視点」を示したものがあり、市民と行政がこれらの在り方や考えを共有し、事業に取り組みます。

また、今後の行動計画として「人」「環境」「仕組み」の3点に視点を当て、「取り組み項目」「内容」「主体」のそれぞれの項目について、計画やアイデアをまとめています。まず、「人」に関しては「意識の向上」「人材育成」などの着眼点に基づき、今後の行動計画をまとめています。

「環境」に関しては、形態のありかた、主体、場づくり、中間支援組織等に視点が当てられ、協働を行う際に必要な環境を整備するために必要な項目についてまとめています。

「仕組み」に関しては、情報共有、市民活動団体への支援、地域協働などに視点を当て、情報の媒体や各種公募、支援としての「お金」「人」「物」、地域協働における仕組みづくりの取り組みなどについてまとめています。

さらに、協働の取り組みの推進方策として一関市協働推進会議の設置、地域協働推進会議の開催、一



関市協働推進本部の活用などをはじめ、取り組み項目を今後5年間の活動計画として「準備作業」「作業」「検討」に分けて示しています。

協働の評価・検証、見直しの項目では、その必要性を述べたうえで、評価・検証に用いる視点として「事業の目標や成果」「費用と成果の整合性」「話し合いの継続性」などを用いるとともに、達成できなかった場合はその原因と改善策を検討する視点として「市民の特性」「市民組織の創意工夫」「行財政的な効果」を用いており、評価・検証委員会の設置や自主評価の実施などを挙げています。

抽象的で専門的であるという印象が強い「協働」ですが、その内容について理解し、あるべき協働の姿を全員で共有することで、今後の事業や活動の質の向上につながります。

「分かりづらい箇所」や「抽象的な内容」に対するプラン案の具体化と修正の必要性についてのコメントに加え、参加者からの感想には次のようなものがありました。

- 市民にどうPRするのが分からない。
- 「協働」ではなく「協動」や「協同」などの言葉はどうか。
- プランの継続的な見直しが必要だ。
- みんなで当事者意識を持って活動すべきだ。
- 「創造の人づくり、心のまちづくり」が大切だ。
- 市民のために親切に対応してほしい。
- 行政も仕事ではなく一市民としての気持ちを持つべき。

9月イベント・ボランティア情報

| | | | | | | |
|-------------|----|----------|----|--------|--------|-------------|
| | | | 1 | 2 ① | 3 ② | 4 ② |
| 5 ②、③、④ | 6 | 7 ⑤、⑥ | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 ⑦、⑧ | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 ⑨ |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 ⑩、⑪、⑫ |
| 26 ⑬、⑭、⑮ | 27 | 28 | 29 | 30 | | |

① 一点逸品運動と「まちづくり」講演会(一関市)

9月2日(木)13時～15時

一関文化センター・小ホール

講師:加藤博(パサージュ・マネジメント・オフィス)

参加費:無料

0191-21-8412(商業観光課)

②第14回黄金の国陶芸展(一関地方物産振興協会)

9月3日(金)～5日(日)10時～17時

千厩酒のくら交流施設

斎藤英樹特別展・普段着の家具展・陶 de カフェ

参加費:無料

0191-21-8412(商業観光課)

③2010ワンワールドフェスティバル in いわて(花のまち交流協会)

9月5日(日)15時～

花と泉の公園

講師:ペマ・ギャルポ氏(桐蔭横浜大学国際交流センター)

0191-82-2445(小沢)

参加費:1000円(先着150席)

④ライン～つなぐ・つながる・つなげる～(NPO法人響生)

9月5日(日)10時～12時

講師:那須賢輔(ワークショッププランナー)

アートワークショッププログラムの見学者を募集予定です。

0191-56-2690(杉山)

⑤ファシリテーション地域づくり実践塾(いちのせき市民活動センター)

9月7日(火)19時～21時

Point1(新鮮館おおまち向かい)

講師:小玉順子さん(大崎地域創造研究会)

0191-26-6400(須藤)

⑥てんとう虫教室(障害者アート交流受託事業)

(NPO法人アートで明るく生きるかわさき)

9月7日(火)28日(火)10時～15時

川崎公民館

おにぎり、エプロン、三角布、お茶代

0191-43-4733(木村)

⑦100%植物性クリーム作りワークショップ(風と虹の教室)

9月12日(日)13時30分～15時

風と虹(花泉町金沢字東要害30 金田宅)

講師:オータム・ネス・平さん

参加費:3000円

080-1827-2514 kazetoniji@flute.ocn.ne.jp

⑧Eボート大会(NPO法人北上川サポート協会)

9月12日(日)9時～16時

北上大橋付近の北上川

小雨決行。(北上川増水時等の場合は大会を中止する)

0191-36-5666(事務局)

9月イベント・ボランティア情報

NPO法人一関文化会議所の学習講座

現地探訪

仙台支藩 一関藩の
誕生と伊達騒動に
まつわる旅

受講生大募集!!

9月25日

(第4土曜日)

[8:00~17:00]

現地探訪

「仙台支藩一関藩の誕生と伊達騒動
にまつわる旅」

Uドーム⇨岩沼城跡⇨竹駒神社⇨ ⇨船岡城址公園⇨しばた
の郷土館⇨昼食(白石うーめん)⇨白石城⇨歴史探訪ミュージアム⇨
片倉家中旧小関家武家屋敷⇨Uドーム

一関藩士会 会長

あかつかちかと
赤塚愛人氏

古文書を親しむ会

あべみつひろ
阿部實弘氏

一関市
総合体育館
(ユードーム)発着

7:15集合

18:00帰着

⑨地域での暮らしを考える5回連続講座
(いちのせき市民活動センター、一関公民館、一関市社会福祉協会)
9月18日(土)10時~12時
総合福祉センター3階大会議室
講師:三浦幹夫さん(室根第12区自治会)
0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

⑬小さい子のためのうんどうかい(NPO法人いちのせき子育てネット)
9月26日(日)10時30分~12時
一関文化センター体育館
上履き、飲み物、着替え、タオル
保護者・お子さんの氏名と年齢をお知らせください。
0191-26-6400(いちのせき子育てネット)

⑩仙台支藩一関藩の誕生と伊達騒動のまつわる旅
(NPO法人一関文化会議所)
9月25日(土)7時15分~18時
岩沼城跡、竹駒神社、白石城などの探訪です。
参加費:3000円(昼食・保険・バス代ほか)
0191-32-4333(事務局)

⑭リンゴ狩り、クリ拾いツアー
9月26日(日)9時~16時
花泉町内のふるさと探検と秋の味覚を楽しむツアーです。
参加費 大人1600円、子ども800円
090-2275-9450(小沢)

⑪映画上映会(水の里ネットワーク)
『ぼくはうみがみたくなりました』
9月25日(土)13時30分~18時~
登米祝祭劇場(水の里ホール)小ホール
自閉症の青年が教えてくれた大切なこと・・・。
参加費:1000円

⑮花と泉のフォーラム2010(老松活性化同志会)
9月26日(日)13時30分~16時30分
花と泉の公園 れいな de ふろーれす
第一部(パネルセッション)第二部(コンサート)第三部(懇親会)
第一部、第二部は無料。第三部は2000円
事務局 0191-82-3382(佐藤)

⑫地域づくりファシリテーション実践塾(いちのせき市民活動センター)
9月25日(土)13時~17時15分
Point1(新鮮館おおまち向かい)
講師:後藤真さん(ジン・リキファシリテーション代表)
0191-26-6400(須藤)

⑯育児スタッフ(NPO法人いちのせき子育てネット)
月曜日から金曜日の10時~16時
普段の活動で子どもと遊んで下さる方を募集します。

⑰ペットボトルキャップ回収(一関世代にかける橋)
学校、職場でのご協力をお願いします。
0191-23-9721(橋本)

志縁団体紹介

大東町少年少女発明クラブ



大東町少年少女発明クラブでは、地域の特性を生かしたモノづくりを通して、科学的な発想力、よりよい生活態度を育成し、作品を完成させる喜びや子どもたちの豊かな創造性を育てています。平成二年から活動を開始し、子どもたちに実際に体験をさせることを大切にしています。

地域の特性のひとつである「豊かな自然」に着目し、天然の山菜を使用したクッキーの制作や塩づくり体験、飛行機作り、ラジオメーター制作、機械工作実習、研修旅行、表象登録へ向けたマークの開発など、幅広く活動しています。

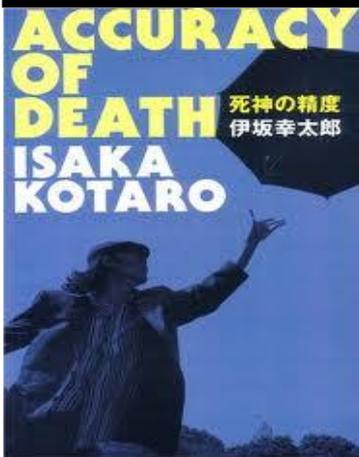
会長の小松さんは「小さな活動ではあるが、次世代に頼りになるような人材を育成できれば」と語り、一瞬の感動を共有する「スポーツ」に対して、一回の発明が生み出す永続的な感動を可能にする「創造」がもたらす可能性と、誰もが同じように持っている自由な発想の大切さを指摘しました。

10月には、活動20周年を記念した講演会を予定しており、今後の創造を通じたふれあい活動から、興味をもつ子どもや市民が生まれ、次世代の子どもたちへと創造の精神を継承する事を目指しています。

大東町少年少女発明クラブ
0191-76-2363(工房すね一く)

図書紹介

伊坂幸太郎『死神の精度』・江國香織『神様のボート』



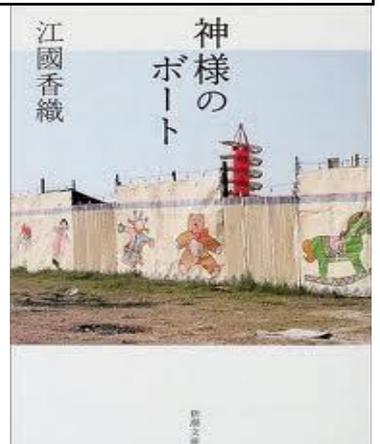
宮城県仙台市在住の作家、伊坂幸太郎が描く「死神の日常」という非日常的な世界がいくつかの短編に収められています。そのなかの一つ「旅路を死神」には、国道4号線を北上する途中で、一関市の風景と食文化が登場します。

「死神」をモチーフにした作品の中でも、伊坂幸太郎の描く死神は「ミュージック」が好きだったり、「仕事ぶり」が適当だったり、どこことなく親近感を覚えます。会話のやり取りがちぐはぐだったり、死神は「まじめなのにどこかズレている」キャラクターとして描かれており、シリアスな展開の中に死神が登場することによって、逆に緊張感がなくなってしまいます。そんな独特の世界観が魅力の一冊です。

作者である江國香織自身が「狂気の世界」と表現している作品です。この作品で描かれているのは、「迎えに来るよ」といって母のもとを去った父の言葉をなんの疑いもなく信じ、暮らす場所に「なじむわけにはいかない」という理由で引っ越しを繰り返して生活している母とその娘の姿です。

現実的でクールな視点で描かれる娘「草子」の物語と、現実離れて、どこか未成熟な視点で描かれる母「葉子」の物語とが交互に語られ、現実と非現実の対比が鮮やかに描かれています。

移り住んだ土地で「浮かないように暮らす」とこと、「なじむ」とことの違いが、繊細な描写から伝わるかもしれません。



いちのせき市民活動センター 月曜日～土曜日 10:00～19:00 (祝日・年末年始を除く)

〒021-0881 岩手県一関市大町 4-29 新鮮館おおまち内 Tel&Fax 0191-26-6400 e-mail center-i@tempo.ocn.ne.jp